

東日本区の歴史

東日本区は、1997年7月1日から、日本区を東西に分割する形でスタートしました。東西日本区の分割案は、ワイズダムが発展する1970年代以降の過程で、組織の肥大化に伴う硬直化やコミュニケーション不足などの問題の解決策として浮上しました。1987年の代議員会で日本区分割検討委員会の設置が承認され、区分割の準備に入り、1993年には東副区、西副区が設置されました。1995年1月、阪神淡路大震災が発生、その余燼が残る中での代議員会で東西に分割することが最終的に決定されました。

新しい東日本区の基本方針は、部の強化に力点を置き、経費削減のために区は「小さなキャビネット」とし、部長の役割と責任は、従来の理事に匹敵するものとなりました。

1997年スタート時は、7部、57クラブ、1246人の会員数でした。その後、クラブ数は、微増するものの、会員数の減少が続きました、これに危機感を持ち、会員数2,000人を目指す「2000プロジェクト」運動が2008年に始まりました。その成果のひとつとして2009年11月には、会員数107人の沖縄クラブが誕生しました。

2010年には、第69回国際大会(横浜)を東日本区がホストし、1,275名の参加者の下、国際協会全体でカーボンニュートラルを目指す「横浜宣言」が採択されました。

2011年3月11日、東北地方(東日本区の北東部のエリア)の太平洋沖を震源とする大地震(東日本大震災)が発生、大津波によって福島原子力発電所が崩壊するなど、日本の自然災害史上、最も甚大な被害が生じました。東日本区では、速やかに支援対策本部を設置し、YMCAとともに

被災地への支援活動を展開しました。この支援活動が切っ掛けとなり、2016年、地元宮城県に「石巻広域クラブ」が誕生しました。大震災から10年が経過しようとしている現在も、私たちは、被災地に寄り添った支援を継続しています。2019年7月には、宮城県の県庁所在地で被災地の都市である仙台市で、第28回アジア太平洋地域大会をホストし、811名の参加者は、震災の脅威と復興の現在を学びました。

近年の区としての大きなプロジェクトとしては、区の定款の改定が挙げられます。東日本区の定款は、区発足後、2003年に一度改定されましたが、時代の変化にマッチし、これまでの国際憲法の改定にも適合するものとするべく、2014年にワーキングチームを設置して検討を始め、各部での検討、区代議員会での承認、国際協会憲法レビュー委員会の審査、国際議会の承認を得て、2018年7月に発効しました。

東日本区になってからの地域会長は、1999-2000年度が奈良昭彦(東京八王子クラブ)で、第18回地域大会を北海道十勝で主宰しました。その後は、2007-2008年度の藤井寛敏(東京江東クラブ)、2010-2011年度の高田一彦(当時横浜クラブ、現在千葉ウエストクラブ)、2018-2020年度の田中博之(当時東京クラブ、現在東京多摩みなみクラブ)です。藤井寛敏は、2010-2011年度の国際会長も務めました。

2020年11月1日の東日本区の現勢は、61クラブ、847人です。現在、2022年までに、東日本区スタート時の会員数1,246人を目標とする会員増強運動「Change! 2022」を展開中です。

Change! 2022

〈12月例会は中止となりました〉

1月 例会担当予告 例会日/1月25日

- 受付/森 重男
- 開会の挨拶/田中 秀宝
- 同上/山田 修司
- 食前の言葉/後藤 雄一
- 司会/栗本 治郎
- 閉会の言葉/泉明寺 みずほ
- 信条/森田 金清

CHARTERED.DEC.15.1963

- 発行責任者/野田 進
- 編集長/日下智博
- 副編集長/小原進一
- 編集委員/渥美雄一郎・稲田梨菜・草柳義則



熱海ワイズメンズクラブ ホームページ ▶ <http://atami-ys.net> メール ▶ mail@atami-ys.net

〒413-0016 静岡県熱海市水口町15-15 TEL.050-7502-2610 FAX.0557-81-7518

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
THE Y'S MEN'S CLUB OF

ATAMI



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT
ACCOMPANIES EVERY RIGHT



Happy Wedding Anniversary

熱海クラブ会長主題

『基本・協調・融和』 Basis, Collaboration & Uniting

強調月間 EMC/ MC

国際会長主題	アジア太平洋地域会長主題	東日本区理事主題	富士山部長主題
Jacob Kristensen (デンマーク) Values, Leadership and Extension 「価値観、リーダーシップ、エクステンション」	David Lua (シンガポール) Make a difference 「変化をもたらそう」	板村 哲也 (東京武蔵野多摩) Let's enjoy "Changes". 「変化をたのしもう!」	伊藤 一芳 (富士宮クラブ) 「ワイズだから出来る事が有る! 絆にやろうぜ! 富士山部!」

Happy Birthday

21日 * 池田直文君	26日 * 矢崎至宏君
21日 * 鈴木道夫君	31日 * 日下智博君
23日 * 泉明寺みずほ君	
～メネット～	
2日 * 小原衣鈴さん	18日 * 栗本恵理子さん
16日 * 蛭田訓子さん	23日 * 小松真弓さん

11月例会報告	スマイル	YMCA基金
在籍者 46名	11月 55,000円	12月 2,851円
療養会員 0名	累計 250,000円	累計 8,835円
広義会員 1名		
出席者 28名	10月メーキャップ 0名	BF基金11月
ビジター 0名		切手 0kg
ゲスト 0名	10月訂正出席率 0%	累計 0kg
メネット 2名		現金 34,000円
インビテーション 0名		累計 159,000円
出席率 62.2%		
計30名		

Happy Wedding Anniversary

22日 * 谷 夫妻
31日 * 日下 夫妻

例会日 毎月第4月曜日 会場 KKRホテル熱海 TEL.0557-85-2000





栗本治郎

Change! 2022 プロジェクト

東日本区においては、会員の減少と共に会員の高齢化が進み、このままいくと近い将来、ワイズ運動の重大な危機を迎えることとなる可能性があります。そこで2018年に「2022年をゴールとする中期会員増強運動を展開すること」が区役員会で承認されました。期間は、2022年12月まで、目標会員数は、東日本区発足の1997年時点の会員数の1,246名です。会員増強事業委員長を中心に新たなメンバーを募り、公募によって名付けられた「Change! 2022」プロジェクトがスタートしました。活動資金は、東日本区ワイズ基金（JEF）から280万円が拠出されました。また、E担当の各部エクステンション委員長、MC担当の各部会員増強主査も加わった「拡大EMC事業委員会」も組織され事業計画も作成されました。

〈事業計画の概要〉

- 5人以上の新クラブの推進。新しいワイズ像の構築
- 部エクステンション委員会の活動による新クラブ作りへの支援
- SNSによる情報発信。（現在約30クラブがFacebookを立ち上げている）
- 新クラブ設立のためのパンフレットの作成
- Change! 2022ニュースの発行（毎月）
- EMCアンケートの実施（クラブ向け・会員向け）
- EMCシンポジウムの開催

実施したEMCアンケートの結果、会員がワイズに求めるものは、奉仕90%、社交50%、研鑽40%、居場所29%、ステータス9%でした。ワイズの抱える課題は、会員の減少、会員の高齢化、知名度の低さ、会員の金銭負担、違和感のある例会プログラム、魅力のない例会、魅力あるCS活動の不足でした。これ等のことを検討し、「Change! 2022アクションプラン」を作成しました。

2020年2月に開催したEMCシンポジウムでは「Change! 2022アクションプラン」と東日本区で一番元気のよい「甲府21クラブの活動報告」の発題を題材としてグループディスカッションを行いEMCの意識向上を図りました。

現在は、新型コロナウイルスの影響で例会だけでなく、ワイズ活動そのものが殆どできない状況になっています。そこで新たに『アクションプランII』を作成しました。リモートを取り入れた例会の推奨、新クラブ設立の助成金制度（新クラブおよびスポンサークラブへ）、2022年までに周年記念を迎えるクラブに、他クラブメンバーから会員候補者を紹介する「アニバーサリー プレゼント プラン」です。区の法人化の検討も始まりました。

コロナ禍におけるモチベーションの低下が会員の減少に繋がらないように、会員間のコミュニケーションへの配慮が求められます。

10月3日に千葉ウエストラブの国際協会加盟認証状伝達式が浅草橋ヒューリックカンファレンスにて行われました。

東日本区ではChange!2022プロジェクトを、昨年度からスタートし2022年までに1997年の東日本区発足当時の会員数である1,246名以上にしようという目標を掲げています。

そのプロジェクトの中から生まれた新しいクラブです。関東東部部大会（柿沼敬喜部長）の中でチャーターナイトが行われました。コロナ禍の中、防染対策として、参加者全員に手洗い消毒およびマスク着用を徹底し、参加人数を会場収容定員数の50%に絞り、密を避けた座席配置（市松模様）、司会者用飛沫防止ビニール板（手作り）の設置、挨拶用マイクも2本を用意し、一人ひとり使用の都度消毒し、マイクカバーとしてのクリーンペーパーも交換する等々徹底して行われました。懇親会も中止とし、弁当による昼食のみとしました。

11月例会 YY談義

村上達也

11月例会時に今期初のYY談義が開催されました。今回のテーマは二つです。

- 1.『知人・友人紹介』
【熱海クラブへ】【他クラブへ(アニバーサリープラン)】
- 2.『新型コロナ禍におけるワイズ活動について』

一つ目のテーマについては毎回の議題であります新会員獲得についてですが今回具体的な有力候補者6名の方を挙げて頂きました。内1名については早い時期でのインフォメーションを予定しており早期での効果を実感しております。又、会員増強の具体策としてワーケーション・リモートワーク等で市内に移住する企業・個人にアプローチを行う事や三ツ星不動産店親切丁寧な(株)イーズのDMにワイズのチラシを同封し市内のマンションにPR活動を行う。今回は遠方にいる知人・友人を思い浮かべて会員候補者としてアニバーサリープレゼント（紹介）を合せて募らせて頂きましたが今回は残念ながら候補者を挙げることは出来ませんでした。引続き近くの知人・友人は「熱海クラブへ」遠方の知人・友人は「他クラブへ」ご紹介をお願い致します。

二つ目のテーマについてはコロナ禍により様々な事業が中止又は延期の憂き目にあっておりましたのでメンバー皆さん様々な事をお考えになられていたようです。数多くのご意見を頂きましたので下記に抜粋させていただきます。

- 事業中止による余剰予算を学校等に確認し必要なものを寄付する。
- コロナ禍においても活動が可能な年賀葉書コンテストのPR活動を積極的に行う。
- 屋外で行える事業を模索する。今は屋内の事業については控える。
- 一般公募によりサンビーチを利用した屋外のイベント（綱引き・ビーチフラッグ等）を行う。
- 集まることが出来ない為、ワイズ活動が出来ないが、集まる事によってワイズダムを温めることが必要でありコロナ禍後の事を考え活動できる状態を確保し会員数・モチベーションの維持を保つ。その為にも例会・会合については行っていきたい。
- 基本は自粛。
- シラフでは良い意見は出ない。酒を出せ！（一番共感しました。）

今般のコロナ禍について各人で考え方は様々かと思いますが多種多様な意見を取り入れて発展してきたのがワイズだと思います。今後もコロナ禍に合わせた活動を行う事により青少年育成、地域の社会貢献に改めて取り組みたいと思いました。メンバー皆様のご協力のお陰で多くの意見を頂き盛会に終えること事が出来、感謝しております。有難う御座いました。



千葉ウエストラブ、国際協会加盟認証状伝達式開催